

導入事例 十六電算デジタルサービス株式会社 様

カナ文字未対応だったOCR処理を完全自動化 4時間の業務を1時間に短縮するなど大幅な効率化に成功



十六電算デジタルサービス株式会社
DX事業部 部付部長
可児 直樹 氏



Client Profile



十六電算デジタルサービス株式会社

ITサービス業

従業員数:62名(2022年3月現在)

所在地 : 岐阜市神田町7-12

設立 : 1985年8月1日

資本金 : 3億6,080万円

事業内容 : 十六フィナンシャルグループのITサービス会社として、岐阜、愛知エリアを中心とした事業者、自治体のDX推進を支援する各種ソリューションの提供、および集金代行サービス「JCSネット」を2本柱に地域密着型のビジネスを展開。

AI OCRを活用して業務を大幅に効率化

十六銀行を中心とする十六フィナンシャルグループの一員である十六電算デジタルサービス。AI（人工知能）やRPA（Robotic Process Automation）などの多様なデジタルソリューションで岐阜、愛知を中心に企業や自治体のDXをサポートしているほか、金融業務に関する豊富なノウハウを生かした代金回収ソリューションで多くの企業の業務効率化に貢献しています。

事業者が顧客から受け取った口座振替依頼書を取りまとめて金融機関に提出し、代金回収を行う収納代行サービスも、同社が提供するサービスの1つです。しかし、このサービスは、扱う依頼書が多い月は13,000枚にもおよび、依頼書管理システムへのデータ入力作業が大きな負担となっていました。そこで、同社が採用を決めたのがキャノンマーケティングジャパンのAI OCRソリューション「CaptureBrain」です。従来のOCRソリューションが抱えていたカナ文字対応や文字認識率、画面操作性の向上といった課題を解決し、約4時間かかっていた業務が約1時間で完結するようになるなど、大幅な業務効率化を実現しています。

01 導入背景

カナ文字に対応できないOCRでは 効率化の効果も半減

事業者も利用者も集金や支払いに関する手間を省略できる口座振替は、新聞の購読料、学習塾の月謝、フィットネスクラブの会費など、多くの事業者が利用しています。十六電算デジタルサービスが提供する口座振替依頼書受付サービスは、この口座振替を開始する際に、事業者が顧客から受け取った口座振替依頼書を十六電算デジタルサービスが取りまとめて金融機関に提出するサービスです。

「依頼書の数毎月、何十件、何百件ともなると、お客さまの負担は決して小さくありません。そこで、当社が依頼書の提出を代行しているわけです。口座振替依頼書を受け取ったら、記入漏れ、ハンコのかすれといった不備がないかをチェックし、依頼先の金融機関に提出。その際、手続きの進捗管理や問い合わせ対応、集計処理などをするために、依頼書の内容を当社の『依頼書管理システム』に入力しています」と十六電算デジタルサービスの可児 直樹氏は説明します。

しかし、当社が代行して提出する振替依頼件数は年間約15万件。多い日は1日に約1,800件の依頼書を扱うこともあります。これだけの情報を入力すると工数は膨大。OCRを活用して入力業務の自動化も進めてきましたが対応していたのは英数字だけ。カナ文字で書かれている預金者氏名は手で入力しなければなりません。「当然、手入力の手間が残る上、転記ミスの懸念も避けられません。せっかくOCRを導入しているながらデジタル化のメリットを十分に享受できていない状況でした」と可児氏は言います。

02 選定理由

認識精度や帳票の 自動仕分け機能を高く評価

十六電算デジタルサービスは、OCRソリューションのリブレースを決断。キャノンマーケティングジャパンのAI OCRソリューション「CaptureBrain」を新たに採用しました。「英字、数字だけでなくカナ文字を含む日本語も高い精度で文字認識するOCRエンジンを搭載。氏名や住所、金額などに特化したOCRエンジンも複数搭載しています。手書き文字にも強く、読み取り精度の高さ評価しました」と同社の坂本 幸司氏は言います。

また予め登録しておけば異なるフォーマットの帳票に自動対応できる点も評価しました。「人手で事前に仕分けたり、設定を変えたりせずとも、自動的に仕分けてくれます」と坂本氏は続けます。さらにペリファイ（突合確認）画面の見やすさも採用を後押ししました。「帳票の原本イメージと認識結果が上下に並んで表示されるため、最小の視線の移動でペリファイを行えます」（可児氏）。

CaptureBrainの帳票仕分けイメージ



03 導入後の成果

16時までかかっていた業務が 午前中で終わることも

CaptureBrainの導入によって、同社は英数字だけでなくカナ文字まで、口座振替依頼書に記入されているすべての文字を自動入力できる環境を実現しました。「専用のスキャナを使ってOCR処理を行うのですが、数秒程度で高速に読み取ってくれます。カナ文字対応、ペリファイのしやすさ、そして高速処理によって入力業務が大幅に効率化。以前は6名の人員で11時から16時ごろまでかかっていた入力業務が、現在は早ければ午前中に完了しています」と同社の河合里奈氏は言います。

セキュリティ面での工夫もあります。CaptureBrainはクラウドサービスであるため、口座振替依頼書のイメージはクラウドにアップロードされます。「銀行印」を、そのままアップロードすることには抵抗があったと言います。「キャノンマーケティングジャパンが、スキャナのソフトの機能を応用して帳票イメージから印影だけを削除する方法を提案してくれました。提案力と対応力に感謝すると同時に、さすが『イメージング』の会社だと感心しました」と可児氏は語ります。

04 今後の展開

実践で得たノウハウを生かし グループ企業や顧客のDXを後押し

このように十六電算デジタルサービスは、人手が残っていた入力業務をCaptureBrainで完全自動化し、大幅な効率化を実現しました。今後はCaptureBrainの導入を通じて得たAI OCRの活用ノウハウをお客さまのDX推進支援にも生かしていきたいと言います。「実際、あるグループ企業とは既にCaptureBrainを活用した業務改善を進めています。世の中にまだ紙が残っている業務はたくさんあります。それらの業務のデジタル化にCaptureBrainは大いに役立つはず。積極的に提案していきたいと考えています」と可児氏は強調しました。

導入サービス

クラウド型AI OCRソリューション
「CaptureBrain」

<https://canon.jp/business/solution/ocr/lineup/capturebrain>

CaptureBrain

POINT ▶

高い読み取り精度
帳票の自動仕分け

- 独自のイメージング技術を駆使してOCR認識率を向上
- 英字、数字だけでなくカナ文字を含む日本語に対応
- 帳票を自動判別/仕分けし、OCR箇所を自動特定
- さまざまなOCRエンジンを組み合わせて高い認識率を実現